

令和3年度 事業報告書



社会福祉法人 神奈川やすらぎ会

【目次】

各 部 門		
①	特別養護老人ホーム 森の里	1
②	通所介護	3
③	管理・営繕	4
④	特別養護老人ホーム 第二森の里	6
⑤	居宅介護支援	8
⑥	地域包括支援センター	9
⑦	みらくる保育園	10
⑧	総務	13
⑨	厨房	14
⑩	各委員会	15
稼働率		
⑩	森の里特養 2期比較	22
⑪	第二森の里特養 2期比較	23
⑫	森の里・第二森の里特養 要介護度別 2期比較	24
⑬	通所介護 曜日別利用 2期比較	25

1、実施報告

- ① コロナ禍でも楽しめるように、IT を活用し日々のレクリエーションを日課とし、楽しく過ごして頂ける様、努める事ができました。
- ② 技能実習生への教育を職員間で情報を共有し教えることができ、今後も継続していきます。
- ③ 機能訓練についても PT と医務との連携を図ることができました。

相談員

コロナ禍でご家族との交流が満足に出来ないなかで、お便りや電話、SNS を通じて近況をお伝えし、WEB 面会のお誘いを心がけました。職員と連携し、買い物などの要望にも極力お応えできる様に努めました。

お年寄り一人ひとりの価値観を理解するよう努め、適度な関係性を保てるよう努めました。

医務

PT とともに年間通して機能訓練に取り組み、ADL の可視化を実施することができました。また、機能訓練を通して運動能力だけでなく、表情や言動も違って来たことを実感し、学んだ知識を来年度も引き継いで実施していきます。機能訓練に関しては一部の職員しか関わるができず、職員全員への展開ができませんでした。

介護職員へ、日々のアドバイスや緊急時、急変時、感染症の研修を行ったことで、介護職員との連携ができ、お年寄り一人ひとりに応じたケアを提供することができました。

新型コロナウイルス感染症における施設内での対応にまだ不安があるため、感染拡大予防の強化 および情報発信を行い、安心して生活することができるようにしていきます。

介護支援専門員

施設に入所した後も、その人らしい生活スタイルが維持できるよう、ご家族やご本人から要望や希望を伺い、それを反映したケアプランを作成し、多職種で連携することで入所者の状況に応じたサービスを提供する事が出来ました。

2、研修

内部研修

- ・ 認知症研修
- ・ 感染症研修
- ・ 事故防止研修・虐待と拘束研修
- ・ 介護技術研修(ポジショニング)

外部研修(リモート研修)

- ・認知症に寄り添うケア
- ・体にやさしい介助入門
- ・看取りケア研修

3、年間行事計画

4月	お花見	10月	
5月		11月	
6月		12月	クリスマス会
7月	七夕	1月	祝い膳
8月	夏祭り	2月	節分
9月	ふれあい祭り	3月	ひな祭り

4、クラブ計画

書道クラブ(毎週月曜日) ・華道クラブ(第二、第四木曜日)

1、実施報告

- ① 個別機能訓練では、新型コロナウイルス感染症予防の為、人数制限や実施前の手指消毒および使用機器の消毒に努め実施しました。
行事では、ドライブや風船バレー大会は中止としましたが、夏祭りやレクリエーションなど感染症予防を徹底し行いました。
- ② 見学などの対応が難しい時期もありましたが、IT 機器を活用し、施設内や活動の様子を見て頂き対応しました。担当者会議の実施も難しく、書面や電話などでできる限りご家族や担当ケアマネジャーに分かりやすく伝えるように心がけました。
- ③ Web 研修が増え参加できるようになってきました。
- ④ より良いサービス提供ができるよう、見直しや新しい事にチャレンジするなど職員も積極的に取り組みました。今年度は研修の機会も増えてきたのでリモートなど積極的に取り組んでいきます。

2、年間行事

4月		10月	
5月		11月	
6月		12月	クリスマス会
7月		1月	新年会
8月	夏祭り	2月	豆まき
9月		3月	

3、研修

- 6月 事故防止、身体拘束適正化、高齢者虐待、食中毒研修
- 10月 移乗動作研修
- 11月 事故防止、身体拘束適正化、高齢者虐待、感染症研修
- 1月 認知症研修

実施報告

1、車両管理と運用・送迎部門

- ・ 送迎車は多走行車が多いので、こまめに点検しオイル交換等を実施しました。
- ・ 送迎中、それ以外の時も大きな事故はありませんでしたが、小さな傷が出来る位の少し車をぶつけてしまう事が今年度も何件かあったので、安全運転を心掛けるように注意するよう話し合いました。
- ・ 1月に神奈川県自動車会議所様からHONDAのN-BOXを1台寄贈頂きました。

2、設備・営繕部門

- ・ 第二森の里、みらくる保育園の年4回の換気扇とエアコンの清掃については新型コロナウイルスの影響で今年度も出来ない時期がありました。
- ・ 新型コロナウイルスの影響で館内の作業が制限された事もあり、日中の人数を減らした日を多くしました。
- ・ 草刈りや外部の高圧洗浄等は、年間を通して計画通りに実施出来ました。

3、研修報告

6月	15日, 24日: 事故防止 身体拘束適正化 高齢者虐待の研修
10月	13日: 安全運転管理者講習
11月	4日: 副安全運転管理者講習 19日, 25日: 事故防止、身体拘束適正化、高齢者虐待の研修
12月	21日: 感染症についての研修

現有車両走行距離比較一覧表(2022.3現在)

NO.	車種等	初年度登録年月	使用経過年月数	総走行距離(Km)	年間走行距離(Km) 2021.4~
		使用部門			
1	トヨタ:ハイエース1号 相模 800す6229 車椅子4台+3人乗り	2010年11月 デイサービス ショートステイ	11年4ヵ月	87,153	11,419
2	トヨタ:ハイエース3号 相模 800さ9928 車椅子4台+3人乗り	2004年6月 デイサービス ショートステイ	17年9ヵ月	110,102	2,550
3	トヨタ:ハイエース6号 相模 300ま4399 10人乗り	2005年2月 デイサービス ショートステイ	17年1ヵ月	128,814	8,524
4	トヨタ:ハイエース7号 相模 301は7625 10人乗り	2015年4月 デイサービス ショートステイ	6年11ヵ月	36,051	7,402
5	トヨタ:エスクエア1号 相模 531せ3888 7人乗り	2015年12月 デイサービス ショートステイ	6年3ヵ月	74,073	9,587
6	トヨタ:エスクエア2号 相模 531ち3888 7人乗り	2017年3月 デイサービス ショートステイ	5年0ヵ月	50,688	10,769
7	ダイハツ:タント2号 相模 880あ 226 車椅子1台+2人乗り	2007年2月 デイサービス ショートステイ	15年1ヵ月	100,796	4,889
8	ダイハツ:アトレ1号 相模 880あ 97 車椅子1台+3人乗り	2006年3月 デイサービス ショートステイ	16年0ヵ月	179,844	13,003
9	ダイハツ:ハイゼット2号 相模 880あ 564 車椅子1台+3人乗り	2009年1月 デイサービス ショートステイ	13年2ヵ月	151,345	11,734
10	ホンダ:N-BOX 相模 581き 3430 車椅子1台+2人乗り	2022年1月 デイサービス ショートステイ	0年2ヵ月	236	236
11	ダイハツ:ハイゼット3号 相模 880あ 778 車椅子1台+3人乗り	2010年2月 総務	12年1ヵ月	37,395	1,903
12	ダイハツ:ムーブ3号 相模 880あ1125 車椅子1台+2人乗り	2004年3月 居宅	18年0ヵ月	104,954	4,733
13	ダイハツ:ムーブ6号 相模 880あ 19 車椅子1台+2人乗り	2005年2月 居宅	17年1ヵ月	110,898	5,130
14	ダイハツ:ハイゼット4号 相模 480す7079 4人乗り	2018年2月 居宅	4年1ヵ月	20,848	4,474
15	ダイハツ:タント3号 相模 880あ 364 車椅子1台+2人乗り	2007年11月 居宅	14年4ヵ月	106,057	5,143
16	ダイハツ:タント1号 相模 880あ 225 車椅子1台+2人乗り	2007年2月 包括	15年1ヵ月	112,016	4,278
17	ダイハツ:ムーブ2号 相模 880あ1124 車椅子1台+2人乗り	2004年3月 包括	18年0ヵ月	100,397	3,455
18	ダイハツ:ムーブ5号 相模 880あ 18 車椅子1台+2人乗り	2005年2月 包括	17年1ヵ月	105,919	4,200
平均			13年4ヵ月	89,866	6,302

1、実施報告

- ・入居者の日々の状態変化を見逃すことなく、ケアワーカー、医務、厨房等他セクションと連携し情報共有をすることができました。
- ・感染症対策として面会など制限する中、家族には森の里便りだけでなくこまめに電話での連絡等で密に生活の様子を伝えることに努めました。

- 1階
- ・コロナ禍で家族との面会や外出の制限の中で入居者の生活を安心して楽しく送れるよう、職員間で共有し行動する事に努めました。
 - ・皮膚トラブルや褥瘡予防に努め、医務とも連携し改善出来ました。
 - ・尿路感染者が多かったので次年度は予防に取り組みます。
- 2階
- ・コロナ禍でレクや外出等が制限されているなかで出来る事を話し合い、歌番組や動画配信サービスを利用し、楽しみの場を提供するように心がけました。
 - ・季節に合わせた創作レクリエーションを行い、入居者それぞれが考えた作品を制作できました。
 - ・看取りケアでは、家族と話し合いながら、本人、家族の意向に寄り添い、CWも一緒に看取ることができました。
- 3階
- ・外出困難な中、ベランダで野菜作りを行いました。あえて入居者にアドバイスをもらい、育てる楽しみ、喜びを入居者とともに感じることで達成感を味わっていただきました。
 - ・手作りヨーグルトを実施している事で排便困難な入居者の下剤カットを行いました。それに伴い、運動も実施しスムーズな排便を促す事が出来ました。
 - ・毎月の家族への手紙に日常の写真を送る事で、家族の不安や心配を軽減できるよう努めました。

- 相談員
- ・看取り期について、家族に面会時や電話にてこまめに様子を伝え、ご理解と不安のないように務めました。
 - ・コロナ禍で面会ができない中、森の里便りや家族への電話連絡の際にはWeb面会のお誘いを心がけました。

介護支援専門員

- ・入居者のニーズを的確に捉えてケアプランに反映できるよう、アセスメント等の支援技術向上に努めました。
- ・今後も入居者の意向や家族の意向を汲み取り、専門職としての役割を構築していく必要があると感じています。

人財育成担当

- ・PCやタブレットを活用し、Webで会議や研修を開催することができました。
- ・定期的に職員と話し合いを行い、業務改善につなげることができました。
- ・グループコミュニケーションアプリを活用し、他セクションとも円滑、かつスピーディーに情報共有を行うことができました。

短期入所

- ・コロナ禍で施設見学が叶わない中、タブレットを使用し Web サイトの施設案内より施設写真を閲覧して頂き、イメージ作りに活用しました。
- ・契約時、ご自宅の滞在時間を極力短くするように心がけました。
- ・リモートの研修会に参加することで、他施設や多職種の方との交流を図り、意見交換ができました。

医務・コロナ禍において、疑いのある発熱者に対して適宜 PCR 検査を実施し、迅速に感染対応に努めました。施設内での利用者の感染、インフルエンザの発症もゼロに抑えることができました。

- ・感染時の対応や看取り期の対応など、他セクションと情報を共有してリスク管理を行い、入所者の環境をより良いものにできるよう努めることができました。
- ・家族との面会が制限されている中であつたが、看取り期における家族の思いをくみ取り、多職種と協働しながら最期の時のサポートをすることができました。

洗濯・清掃

- ・入居者に気持ち良く生活していただけるよう、清潔保持に努めました。
- ・衣類の紛失や洗濯方法の間違いがないよう確認の徹底をしました。
- ・定期的に各階フロア、居室、トイレのワックスがけを実施しました。

2、行事

4月	お花見ドライブ	8月	夏祭り
9月	ふれあい祭り	10月	運動会
11月	秋の実り祭り	12月	クリスマス会・忘年会
1月	祝い膳	2月	節分

3、研修

内部研修

4月	新任職員研修	6月	感染症対策・食中毒について
7月	ターミナルケア	8月	ヒヤリハット・事故防止
10月	介護技術(各階)		
11月	高齢者虐待防止		
3月	高齢者虐待・身体拘束		

外部研修

- ・4/23「新入社員等防災体験研修会」 コロナ感染予防で中止
- ・7/7「介護支援専門員資質向上研修」 前野
- ・7/13「みんな幸せになれる事業所・施設運営」 蛸崎
- ・7/15「在宅医療・介護連携研修会」 蛸崎
- ・9/28「アンガーコントロール～怒りと上手につき合う方法」 鈴木(颯)
- ・1/18「事業所消防・防災担当リーダー教育」 コロナ感染予防で中止
- ・3/11「看取り介護」 前野 鈴木 赤間 白澤 古屋

1、実施報告

- 1、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し業務を行いました。また、感染が発生した場合は速やかに必要な関係者への連絡を行い、拡大防止に努めました。
- 2、3年に一度の介護報酬改定が行われました。内容の理解と対応を行いました。
- 3、訪問診療を導入する利用者が増え在宅医療が推進されました。一方で退院の調整等は病院への立ち入り、面会制限がある中、情報を共有し連携を取りました。
- 4、他法人の居宅事業所と事例検討を行い、ケースについて深く考え共有することができました。今後も継続し様々な視点からアプローチ出来るようにしていきます。
- 5、計画的に研修会に参加しその後、会議で情報共有や共通理解ができるようにしました。今後も Web での研修にも積極的に参加し、介護支援専門員の資質向上が図れるようにします。

2、研修報告

4月	福祉現場における接遇 (Web)
5月	フレイルとフレイルチェックの理解について (Web) 教えて薬剤師さん～在宅医療・福祉で知っておきたい薬の基礎知識～ (Web) 病院と地域を繋ぐ入退院支援部門の役割～事例から学んでみよう～ (Web) 地域の社会資源の理解 (Web) 認定調査員研修
6月	尊厳を大切にしたい排泄ケア～排尿障害について～ (Web) 教えて Dr. 脱水症と熱中症について (Web) 在宅酸素療法・NPPV・TPPV 療法 (Web) 今からできる老い支度～任意後見制度と自筆証書遺言保管制度～
7月	高齢者の低栄養問題と対策について (Web) 紙おむつの基礎知識 (Web)
8月	尊厳を大切にしたい排泄ケア～排便障害について～ (Web) がん患者の在宅での看取り (Web)
9月	認知症の方の思いに寄り添うケア (Web) 大腸がんの基礎知識 (Web) 在宅療養を支援する訪問看護の役割 (Web) ケアマネ交流会 (厚木市高齢者サービスについて)
10月	令和3年度介護報酬改定の概要 (第1回) (Web)
11月	ケアマネ部会研修 (DVを疑われる介護者との関わり方) 令和3年度介護報酬改定の概要 (第2回) (Web)
12月	後見制度支援信託と家族信託について (Web)
3月	看取りケアについて (Web) 地域で診る心不全チーム医療 (Web) ケアプラン点検事業に係るオンライン報告会 (Web)

その他施設内研修への参加

1、実施報告

- ① 地域活動や居場所づくりに関しては、感染状況もあり充分に行えない状況でした。会議や研修においては、感染防止対策の徹底と IT の活用する事で実施ができました。今後も自治体が発信する感染状況の最新の動向に注視し、各関係機関と連携していきます。
- ② 地域ケア会議や民児協、協議体等を通じ地域住民や関係機関との連携を図る事ができました。今後も協議体の事務局として、生活支援整備体制の整備を行います。
- ③ 総合相談窓口として多様な相談に対応し、専門機関や制度利用につなげる事ができました。権利擁護、成年後見及び虐待防止は速やかに対応し、切れ目のない支援をしていきたいと思えます。
- ④ 対象者には定期訪問や電話連絡を行い、生活状況の確認をする事ができました。関係機関とも情報共有し状態悪化の予防に努めています。

2、年間行事計画

*まん延防止等重点措置にて活動中止あり

4月	みな来るラジオ体操（飯山） 包括便り春号発行	10月	緑ヶ丘会食会（中止） 尼寺老人憩の家相談 みな来るラジオ体操（緑ヶ丘） 包括便り秋号発行
5月	みな来るラジオ体操（飯山）	11月	緑ヶ丘会食会（中止） みな来るラジオ体操（緑ヶ丘） 小鮎中学校認知症サポーター養成講座
6月	みな来るラジオ体操（飯山） 緑いきいきサロン	12月	緑いきいきサロン（中止） みな来るラジオ体操（緑ヶ丘）
7月	みな来るラジオ体操（緑ヶ丘） 包括便り夏号発行	1月	包括便り冬号発行 宮の里カフェ 緑ヶ丘新春のつどい（中止）
8月	みな来るラジオ体操（緑ヶ丘）	2月	みな来るカフェ（延期）
9月	緑ヶ丘敬老事業 ケアマネ交流会	3月	小鮎公民館祭り（中止）

3、研修報告

- 令和3年6月 任意後見制度について（Web）
- 令和3年7月 成年後見担当職員研修（Web）
- 令和3年12月 がん患者の在宅看取り（Web）
- 令和3年12月 対人援助職に求められる事（Web）
- 令和3年12月 アルコール依存について
- 令和4年2月 第2回地域診断研修（Web）
- 令和4年2月 ケアマネ部会ハラスメント研修（Web）

1、実施報告

新人指導は、まだ未完成な部分があるがカリキュラムを作成し、本人にいつまでにその業務が出来るようになったら良いかを明確にする事にしたことで、新人職員が目標を持つことが出来ました。

しかし、振り返りの時間を作る事が出来ず新人職員が疑問を持ったまま時間が過ぎてしまった点が反省点です。次年度は、1ヶ月に1回必ず振り返りの時間を作り、疑問を直ぐに解決出来るようにしていきたいと思っています。また、次月の目標を定める事で本人のモチベーションアップにつながると考えます。

体幹運動に関しては、卒園児の保護者や在園児の保護者からも体幹運動の良さが聴こえるようになってきました。職員間でも体幹運動のねらいが周知されたことで、自らこんな動きを取り入れたい等変化がみられました。絵本のカリキュラム作成については達成できませんでした。これは日々の生活に追われてしまった事が原因です。職員一人ひとりが時間の使い方を考え、余裕を持って知識を広める機会を増やさなければならないと反省しています。SNS で毎日発信する事で、求人者も園の保育に理解を持って入職希望をする方が微々たるものが増えていきます。また、思った以上に保護者も見ている事が分かり、園の方針を伝えるツールとして取り入れて良かったです。また、運動会の様子を動画配信したが、作成に時間がかかった割に視聴回数は思った以上に少なく（各学年 100 回位）映し方に工夫が必要だったと感じています。また、保護者への案内も不十分だったことが反省点です。

2、研修報告

5/18 保育のしつの向上に向けた「初めの一步」とは

5/21 写真活用の初めの一步

6/30 LINE 公式アカウントを使った採用

7/31 子どもの発達研修

12/14 食物アレルギーについて

※ 他 20 研修を受講

(研修評価)

今年度は、Web 研修が増えたことで、平日の研修でシフト上難しい職員も仕事の後にそのまま受講できるので多くの研修に参加する事が出来ました。研修報告の時間を多く取れると更に職員の質向上になると考えます。

また、副主任から園内研修を提案され実行する事が出来ました。受講できない職員もビデオをとり PC に入れておくことで、時間がある時に見る事が出来、職員全体の質の向上と保育方針の統一化につながりました。今後は、4月から研修計画を立て非常勤職員も含めて職員の質向上を目指していきたいと思えます。

3、行事報告

4月	春の遠足 2.4 km (4.5 歳児) 入園おめでとう会：2部形式 こどもの日集会：2部形式	10月	運動会：クラス毎 (3.4.5 歳) 保育参観：人数制限有 (0.1.2 歳) 内科健診
5月	親睦遠足 2.2 km (3.4.5 歳児) 親子ふれあいデー：中止 歯科検診	11月	歯科検診 飯山地区ミニディ参加 (5 歳児) 歩け歩け遠足 栄養指導 (5 歳児)
6月	体幹講師来園 尿検査 個人面談	12月	個人面談 (全保護者) クリスマス会：2部制
7月	七夕まつり会：2部制 プール始まり：10人ずつで	1月	交通安全教室：中止
8月	夏のお楽しみ会	2月	親子体幹デー：中止 ゴルフ場園外保育
9月	プール終わり	3月	ひなまつり会：2部制 お別れ遠足・お別れ会 卒園式：人数制限有で実施

* 誕生会は誕生日に行う。

* 避難訓練・身体測定は毎月実施

(行事評価)

- ・乳児クラスは、園児目線に掲示物を置いてなかったので掲示の仕方考えた方が良いと感じました。
- ・コロナの感染対策を含めて、行事は初めから全て考える必要性があり、その為職員一人ひとりが考え、意見を出さなければ進まない状況となりました。しかし、その成果として職員の中で話し合いや意思疎通ができ、行事担当が不在でも他の職員が対応出来るようになり、行事担当以外の職員の部外者的な参加が無くなったと思います。
- ・ねらいを定める事から行事計画が始まるので、会議の時間が伸びてしまいがちなので改善するために会議の出席の前に個々の職員が会議録に目を通して、自分の意見を持って会議に臨めるようにしていきたいと思います。

4、園児数推移

定員：120名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳児	22	25	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
幼児	65	65	65	65	69	69	69	70	70	70	71	71
総数	87	90	92	92	96	96	96	97	97	97	98	98

- ・園児数の増加が見込めない原因は、職員の療養休暇や産休などがあったためです。
また、途中採用の面接は何件もしたが、園の方針に賛同する方に巡り合う事が出来ませんでした。

1、実施報告

- ・ 法人内のニーズを的確に把握し、職員の要望に迅速に対応することができました。
- ・ 感染予防対策に多方面から関わり、施設内感染の予防をサポートすることができました。
- ・ 外国人技能実習生と各セクション及び外部機関との連携をスムーズに行うとともに、実習生3名との積極的なコミュニケーションにより、適切かつ迅速な対応ができました。
- ・ 物品の需要と供給のバランスを把握し、発注数やタイミングを適切に判断することができました。また、常に価格の動向をチェックし購入先の選定を適切に行いました。
- ・ 森の里事務においては、第二森の里と連携し、事務処理を円滑に行うことができました。また、特養と連携し入所者を直接的、間接的にサポートすることができました。
- ・ 介護保険請求業務においては、返戻事例等に迅速に対応し、処理することができました。
- ・ 総合評価として、概ね計画通りに業務を遂行することができました。

年間スケジュール

4月	・決算資料作成	10月	
5月	令和3年度第1回理事会	11月	
6月	・令和3年度定時評議員会 ・令和3年度第2回理事会 ・職員健康診断(1日目)	12月	
7月	・職員健康診断(2日目)	1月	・職員健康診断(夜勤者) <u>※コロナウイルス感染症の影響により中止</u> ・法定調書・給与支払報告書作成・提出
8月		2月	・次年度予算資料作成 ・ココテラス保育園神奈川県監査(書面)
9月	・みらくる保育園神奈川県監査	3月	・令和3年度第3回理事会

1、実施報告

- ・個々の業務が安定し、業務内容を再確認することができました。また、自ら行動し責任を持って行うことが人任せになっていた部分もあったので、今後自ら動けるよう業務に努めていきます。
- ・他セクションと連携を取り食事形態の再確認、コロナ禍のため食事レクの中止があり、通常献立で何ができるか話し合いを基に献立を作成することができました。
- ・仕込みを行う際に出ていた野菜の皮、芯、茎など生ゴミとして処分していた食材をやぎの餌に代用したことでゴミの削減することができました。
- ・食事提供での残菜は各階で増減差があり、減少できるよう食事量や献立の見直しを図っていきます。

2、年間行事食事計画

4月		10月	
5月		11月	収穫祭
6月		12月	クリスマス会、年越し
7月	七夕	1月	祝い膳
8月	夏祭り	2月	
9月	ふれあいまつり	3月	ひなまつり

3、研修

- ・ 嚥下食、栄養管理
- ・ 食中毒、感染症
- ・ 厚木市従事者研修会

1、委員会メンバー

特養1階 児玉 CW / 2F 三橋 CW / B型 濱田 CW/ 医務 門倉 NS

2、実施報告

「専門性」「職業倫理」の向上を基本とし、研修ニーズに合わせた計画を立て知識や技術を習得、実践し、より専門職としての確立を目指しました。

年間計画を作成し、計画書内の日程調整や外部研修講師への依頼など委員に必要な情報を共有しました。

3、年間スケジュール

4月	新任研修	10月	移乗動作研修
6月	事故防止、身体拘束適正化	11月	事故防止、身体拘束適正化
	高齢者虐待、食中毒		高齢者虐待、感染症
		1月	認知症研修

4、総評

今年度研修は、座学を重視し、技術的に取り組めませんでした

外部研修（Web研修）に参加し、自分の言葉で発表ができたと思います。

研修に参加されていない職員には回覧行いました。

人権擁護委員会主催

今年度から参加出来なかった職員のためにタブレットで動画を撮り、動画配信サイトにUPし研修の充実を図りました。（QRコード読み取り）

構成委員

第二森の里 1F 津田 CW 2F 青山 CW 3F 佐藤 CW 医務 芦田 NS 居宅 高橋 CM

1、年度目標

- ① 「専門性」及び「職業倫理」の向上を目指し専門職としてのスキルアップを目指す。
- ② 業務に必要な知識・技術等を習得できるよう、研修計画体制を整備する。
- ③ 「現場で生きる」、「現場で考えて介助できる」研修の実施。
- ④ コロナ状況により密にならない様に少人数での参加を数回に分けて実施する。
- ⑤ Web 研修も取り入れていくようにする。

2、年間行事計画

	合同	第二森の里単独
4月	新任職員研修	新任研修
5月		人権擁護（事故防止）
6月	食中毒	
7月	介護技術講習	
9月	上半期中間評価	ターミナルケア
10月	口腔介護技術	
11月		人権擁護（虐待・拘束廃止）
12月	感染症	感染症予防（ノロ対策）
1月	介護技術講習	介護技術
2月	年度評価、次年度計画	人権擁護（虐待・拘束廃止）
3月	次年度委員への引継ぎ	

3、総評

- ・ 中堅職員の研修参加と現場での指導の実施ができました。
- ・ Web での研修および配布式の研修を実施し、年間の研修計画に沿って研修を行いました。
- ・ 外部研修は上記の通り Web での研修を実施。

1、委員名

(1階) 佐藤 CW (2階) 上東 CW (通所) 本杉 CW
(管理) 橋本、青木 (厨房) 高橋

2、実施状況

5月28日 大雨による土砂災害凶面上避難訓練
8月28日 火災を想定した避難訓練(夜間想定・通報訓練) 実施
10月29日 地震・災害を想定の避難訓練 実施
その他 緊急連絡網更新実施 ヘルメット・懐中電灯点検実施
避難バッグの点検・入替え
防災頭巾の虫干し
毎月 防火設備点検 備蓄庫点検実施
毎月第3木曜日 定例会議実施

3、総評

年間計画に基づき、義務である避難訓練は予定通り実施することができましたが、新型コロナウイルス感染症により厚木防災センターでの体験、消火器訓練は外部との接触が必要なため、感染者数増加に伴い実施は見送り、次年度においても感染状況から適宜実施判断していくことが想定されます。課題として、災害BCPへの着手ができなかったため、策定に向け次年度へ引き継ぎを行っていきます。

1、構成委員

防火管理責任者・・・西迫 哲

委員・(厨房) 星野 (副)

(1階) 川上 CW (2階) 中村 CW (3階) 福本 CW

2、実施状況

水害訓練 7月 9日 大雨による浸水訓練

避難訓練 9月22日 地震・災害を想定した訓練 (通報訓練・消火器訓練)

12月10日 火災を想定した訓練 (夜間・消火器訓練)

3、その他

緊急連絡網更新実施 ヘルメット・懐中電灯点検実施

毎月 防火設備点検

備蓄庫点検実施

毎月1回 定例会議実施

4、総評

年間計画に基づき、義務である避難訓練は予定通り実施することができました。

新型コロナウイルス感染症により厚木防災センターでの災害訓練については、感染者数増加に伴い実施は見送り、次年度においても感染状況から随時実施判断していくことが想定されます。

1、構成委員

西迫施設長・小林副施設長・門倉 NS・陣野原 CW・阪口 CW・志賀栄養士
橋本管理担当・丹羽相談員・神崎 NS・三浦 CW・田嶋 CW

2、実施報告

施設内での感染拡大防止のための研修(知識・実技)を通し、感染の拡大予防についての周知を図ることができました。しかし、実際に行動にうつす際、わからないことが出てくると思うので誰が見てもわかりやすい形で、マニュアルの作成を来年度の課題としています。

3、活動報告

- ・ 月に一度のフロア会議にて周知を図ることができました。
- ・ 食中毒や冬季に向けた感染症の研修の企画を衛生対策委員会で行い、わかりやすく伝わりやすい形で研修実施することができました。
- ・ 新人研修の一環として行い、その他感染症研修に新規採用者の参加を促し、知識だけでなく実技を通して周知することができました。
- ・ 手洗い・手指消毒・咳エチケット・3密対策・消毒換気の徹底を図り、換気は特に徹底するよう衛生対策委員で働きかけを行いました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症のBCP策定にまでは至らず、来年度へ持ち越し、計画を立てることとしました。
- ・ 汚物処理室の清潔保持に努め、まず委員が率先し掃除等を行うことで、スタッフに周知を図ることができ、スタッフもまた意識するようになりました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症について常に情報発信し、緊急の場合は素早く会議を行い、都度対応策を練ることができました。

4、年間会議内容と研修内容

4月	新型コロナウイルス感染症対策・疥癬予防対策
7月	食中毒予防対策
10月	ノロウイルス・インフルエンザ予防対策
1月	衛生面・消毒方法の徹底

※ 5月 新人研修(感染症全般の基礎知識) (門倉)

※ 6月 食中毒研修(厨房 志賀栄養士)

※ 12月 感染症研修と衛生面(ガウンテクニックや手指消毒方法)研修
(衛生対策委員メンバー主催)

1. 構成委員

西迫施設長 圓福 CM 前野 CM 古屋相談員 川越 SS 担当 横山総務担当 大瀧栄養士
白澤人財育成担当 芦田 NS

2. 年間会議内容

7 月	通常疥癬の発症について（報告と対応） 水分摂取と尿路感染、胃腸炎感染対策について 新型コロナウイルス感染症予防ワクチン接種状況報告
9 月	入居者健康診断について インフルエンザ予防接種について 通常疥癬終息について 新型コロナウイルス感染症予防について
1 月	新型コロナウイルス感染症の特徴と感染予防対策について

3. 総評

コロナ渦において日々の基本的な感染対策を見直し、徹底して行いました。
インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の感染者はなし。
今後も、職員の衛生環境に対する手技を周知徹底していき、持ち込みによる
感染症の発症を予防していきます。また、発生時迅速に対応できるように職員教育
をしていきます。

1、構成委員

西迫施設長・小林副施設長・丹羽相談員・陣野原 CW・阪口 CW・渡邊 NS・門倉千絵 NS・橋本管理担当・坂本 NS・澤田 CW・仲亀 CW

2、目標

・虐待や身体拘束に繋がる不適切なケアの要因となる体制や環境の改善に取り組む。

3、総評

- ・虐待や身体拘束に繋がるような題材を上げて研修をしたことによって職員の間で共有しながら環境の改善に取り組みました。
- ・研修に参加できなかった職員には、タブレットで動画を撮り動画配信サイトにUPし情報共有しました。

第二森の里 人権擁護委員会

1、構成委員

西迫施設長・前野 CM・古屋相談員

（1階）加藤 CW （2階）稲本 CW （3階）佐々木 CW

2、総評

ヒヤリハットをPCに記録することにより職員間での共有をすることができました。

しかし、記録者に偏りもあり、記録漏れもあると思われます。

事故やヒヤリの内容を他階や医務など各セクションで報告し、情報を共有することが出来ました。

落葉事故があった際は、フロア会議でその方に適した服薬方法（手に乗せるや口に介助で入れるなど）を検討し、統一したことにより落葉事故が減少しました。

事故防止研修及び虐待、拘束廃止研修はコロナ禍により、人が集まった研修は行わずレポート形式の研修にしました。利用者様の痣がしやすい場所や、スピーチロックについての研修だった為、利用者様と直接かかわりのないセクションの方にとって難しいレポートとなってしまったところが反省点です。人の集まる研修ではグループワークができる為ため各セクションで話し合い、情報や考え方など共有できていたのだと感じました。